

中国銀行貸出市場における市場分断仮説の検証
**Between Mao and Markets: New Evidence on Segmentation of the
Bank Loan Market in China**

早稲田大学大学院 大熊 正哲

本稿は中国銀行貸出市場における「市場分断仮説」の妥当性を実証的に検証する。中国のような移行経済においては、国有企業と非国有企業が直面する資金調達コストには無視しえない格差が存在すると考えられる。そこで国有部門と非国有部門を区別した省別パネル・データを構築した上で、修正された Feldstein-Horioka テストを行う。本稿の主なファインディングは以下である。他の要因を適切にコントロールした上でも、ローカルな非国有企業向け銀行貸出比率がローカルな預金比率に制約される程度は極めて大きい。これは国有企業向け銀行貸出比率と預金比率のあいだに有意な相関が検出されないのと対照的である。このような分析結果は、中国において商業銀行と非国有企業のあいだの情報の非対称性が極めて深刻であり、それが非国有部門の発展を阻害している可能性をも示唆するものである。